

21世紀生活圈研究会 試行的調査(長岡地域)

北陸地方整備局
平成20年12月16日

長岡地域の概況および市町村合併の状況

長岡地域は、新潟県のほぼ中央に位置し、長岡市、小千谷市、見附市、出雲崎町及び川口町の3市2町で構成

地域のほぼ中央に日本一の長さと流量を誇る信濃川が縦断

陸上交通の要衝(関越自動車道、北陸自動車道、北陸新幹線)

総面積は、1,168平方キロメートルで新潟県全域の9.6%(沖縄本島とほぼ同面積)

圏域の中心市である長岡市は、平成17年に周辺4町1村と、翌平成18年には、1市2町1村と合併し、新潟市に次いで新潟県内第2位の人口規模

< 位置・構成 >



< 概要 >

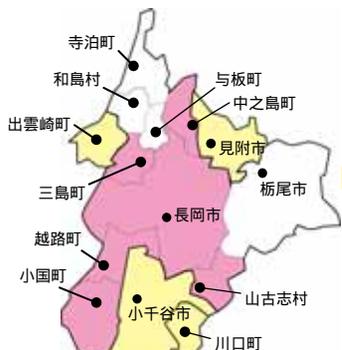
	面積 (km ²)	人口	人口密度 (1km ² あたり)	世帯
長岡市	840.88	283,224	336.8	94,732
小千谷市	155.12	39,956	257.6	12,253
見附市	77.96	42,668	547.3	12,895
出雲崎町	44.38	5,338	120.3	1,711
川口町	50.03	5,233	104.6	1,437
長岡地域	1,168.37	376,419	322.2	123,028
県全体	12,583.32	2,431,459	193.2	812,726

[参考] 日本及び他都市の人口密度 [出典] 国勢調査(平成17年)
 日本平均 343人/km² 新潟市1,120人/km² 東京都5,748人/km²

市町村合併

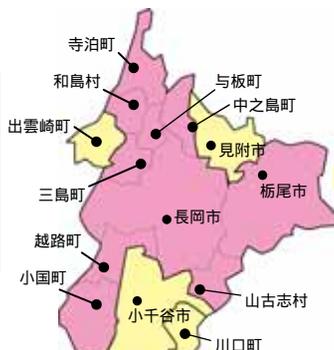
長岡市

2005.4.1合併
234,822人
長岡市、中之島町、越路町、三島町、山古志村、小国町

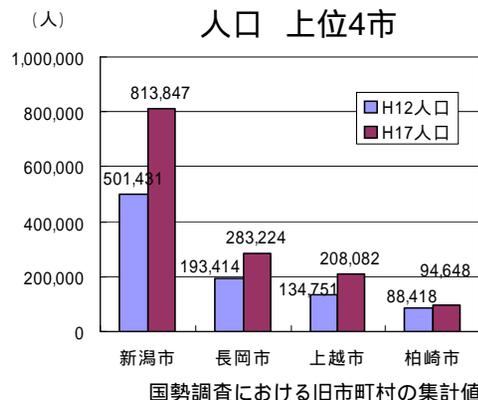


市町役場、支所の位置を示す

2006.1.1合併
283,089人
長岡市、栃尾市、与板町、和島村、寺泊町

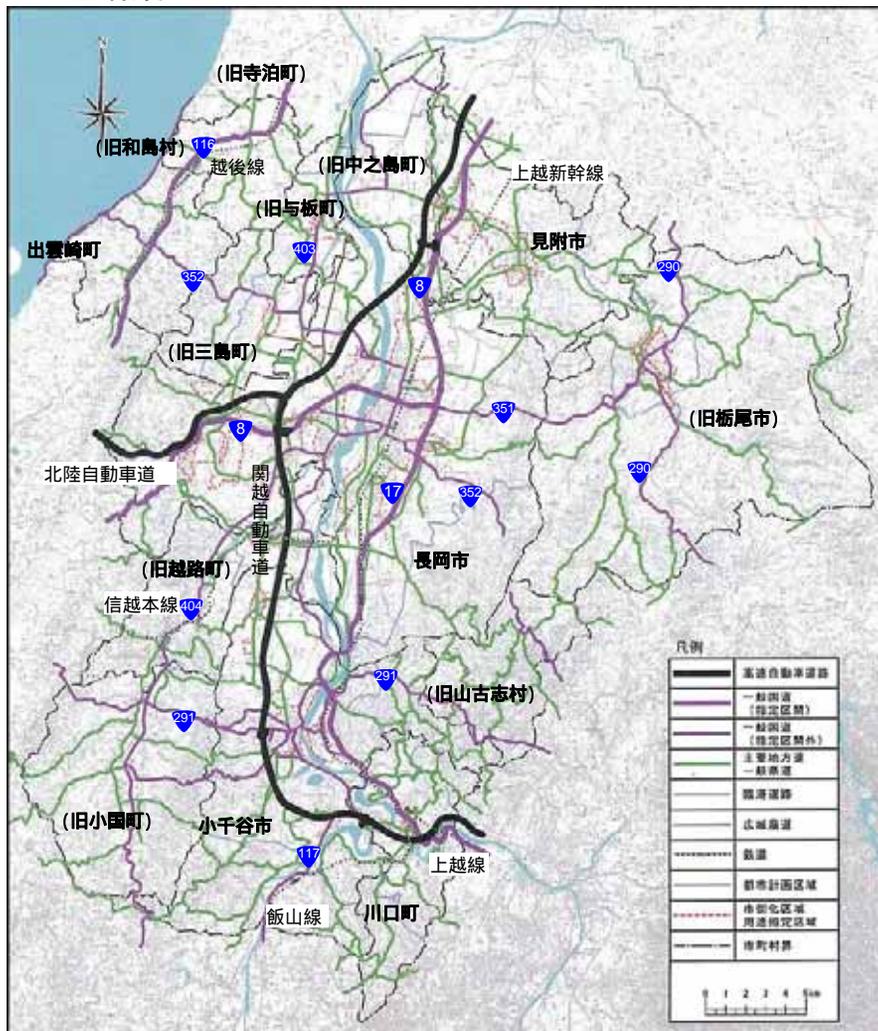


新潟県内第2位の人口規模

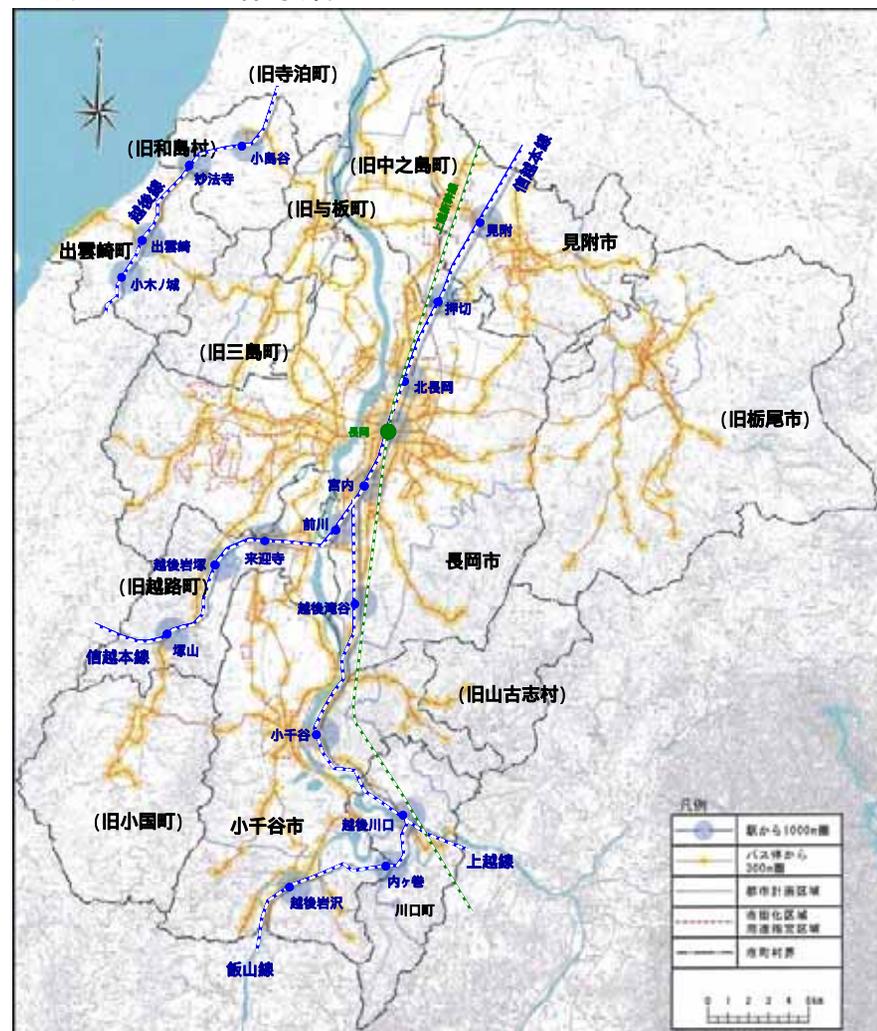


関東と新潟を結ぶ関越自動車道と、日本海側を縦走する北陸自動車道の交わる位置にあり、同様に主要国道も配置されており旧来から交通の要衝
 上越新幹線長岡駅を中心に、上越線・信越線等の在来線があり、鉄道交通でも結節点を形成
 バス路線網も張り巡らされているが、路線網から外れる地域も散見

< 道路網 >

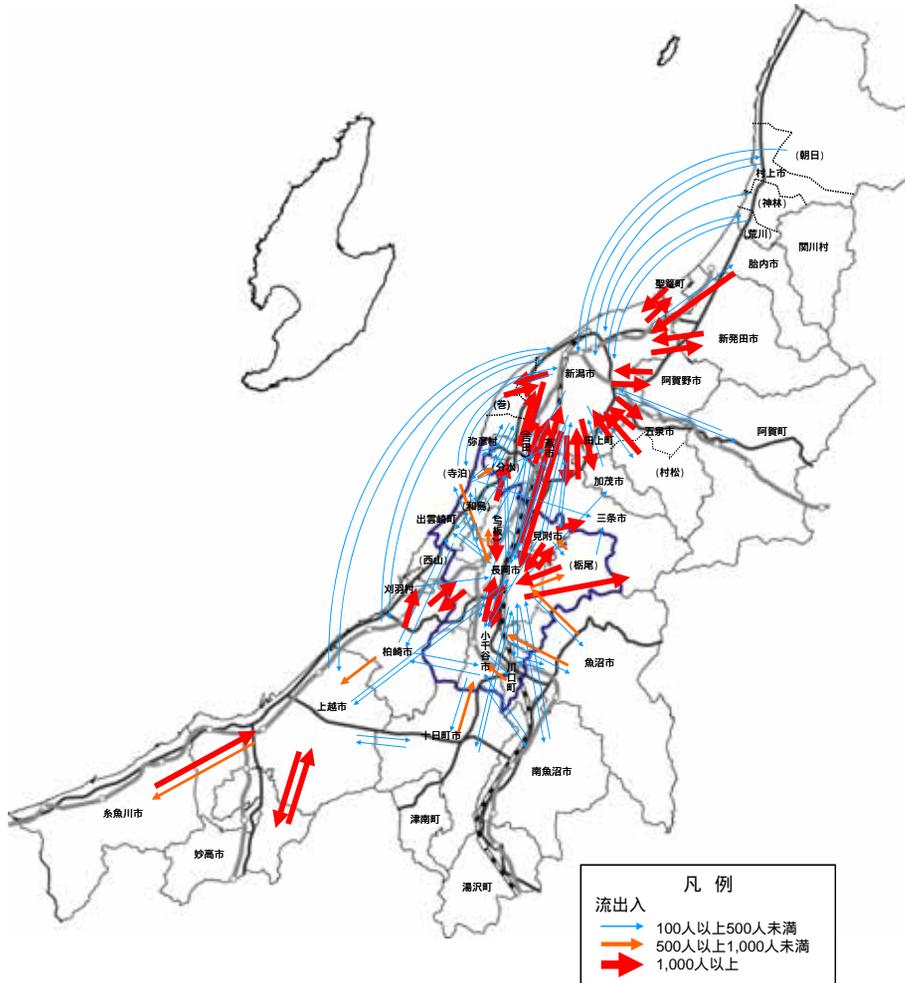


< 鉄道・バス路線網 >



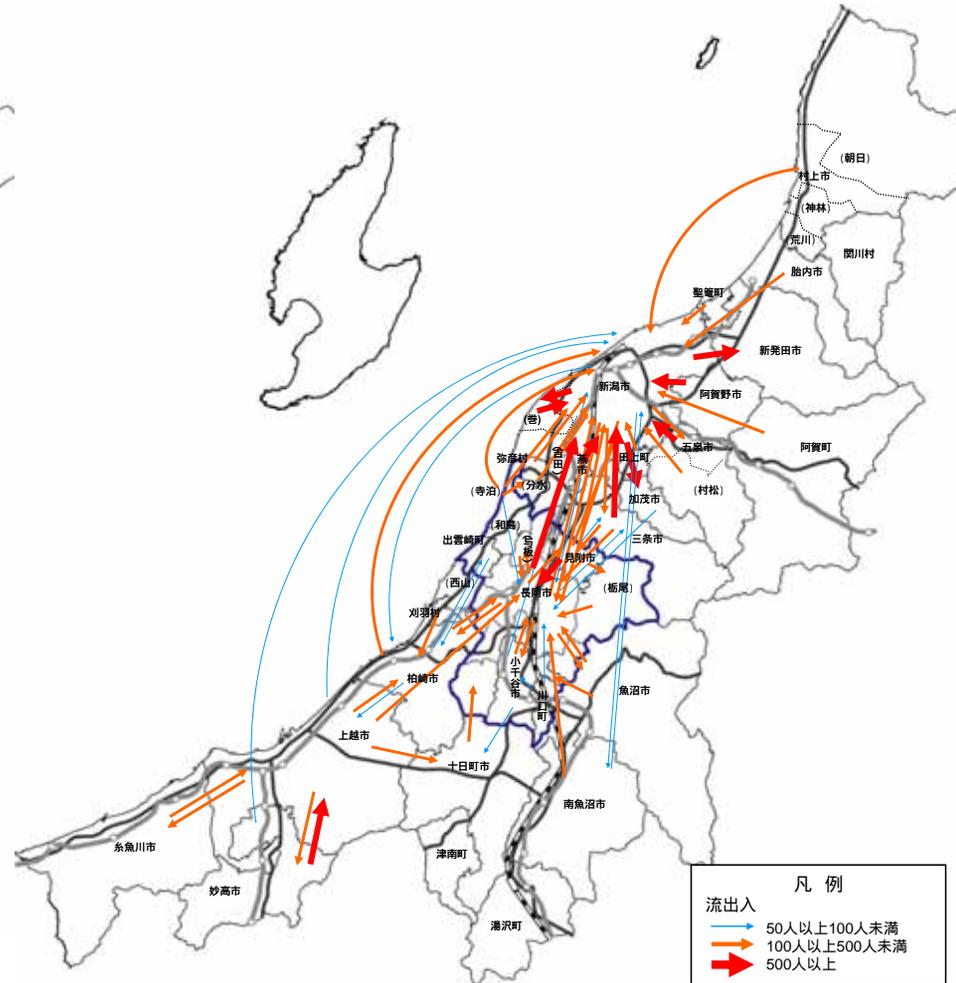
長岡地域及び柏崎市等の周辺の市町からの長岡市への通勤流動が大きく、一部で新潟市を中心とした通勤圏と重複しつつ長岡市を中心とした通勤圏を形成
 鉄道に沿って長岡地域から新潟市への通学が見られるとともに長岡市周辺からの通学を受け入れる通学圏を形成

通勤流動



出典：平成17年国勢調査

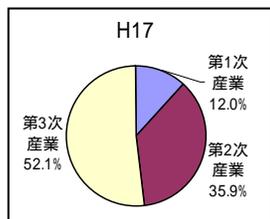
通学流動



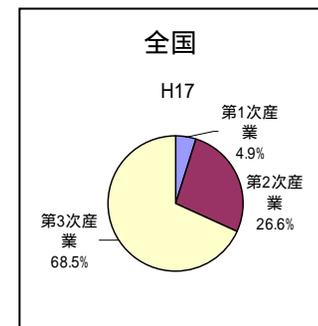
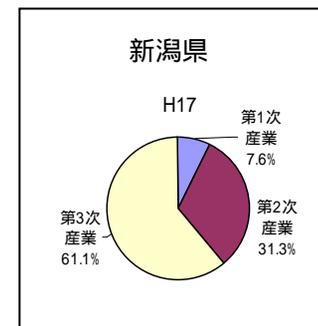
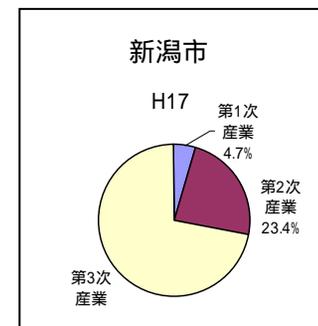
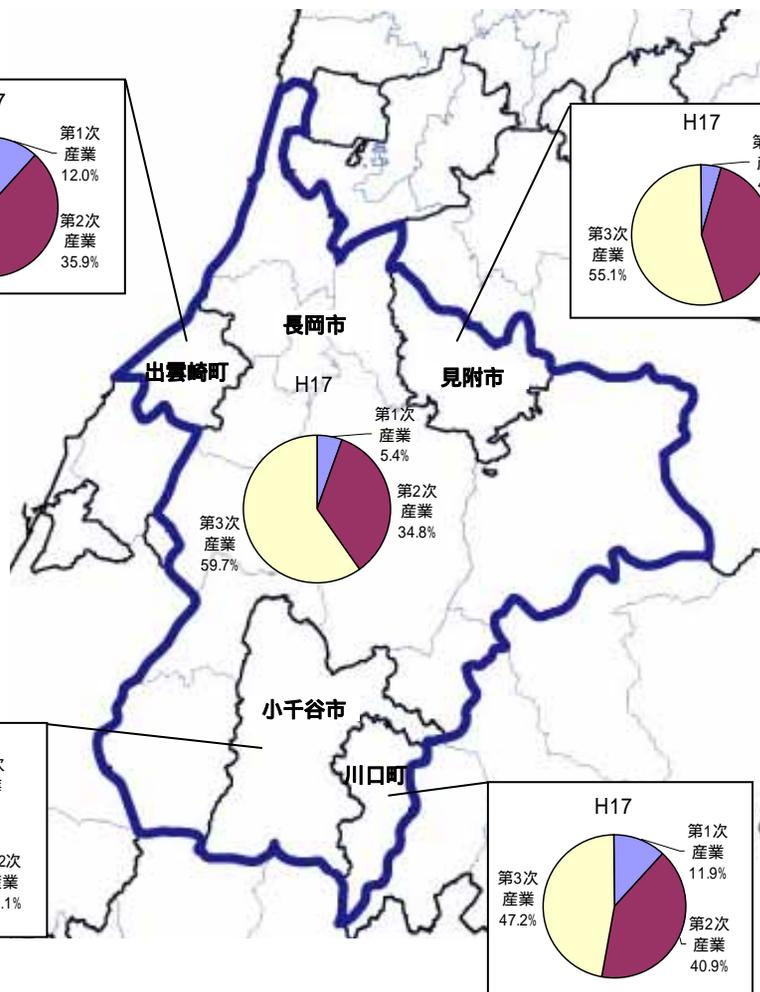
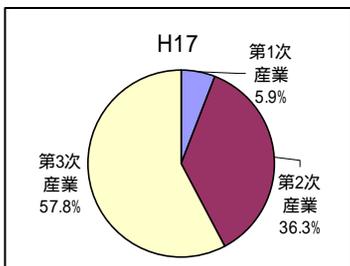
出典：平成17年国勢調査

長岡市の第二次産業（製造業）は、全国の割合に比べ1.3倍
 長岡地域全体でも、第二次産業（製造業）が全国に比べて1.4倍
 長岡市の産業構成は、新潟県と同様の傾向

産業別就業者数 (H17)



長岡地域全体の産業別就業者数



平成16年に発生した新潟・福島豪雨、新潟県中越地震、平成19年に発生した新潟県中越沖地震により中越地方で被災
新潟県中越地震では山古志村(当時)が全村避難となる被害、NPOや民間のネットワークが広がり復興に取り組む

< 中越・中越沖地震の被災状況 >

新潟県中越地震 (H16)



新潟県中越地震				
発生日	平成16年10月23日17:56発生			
震源地	新潟県中部			
M	6.8			
人的被害				
	死者	行方不明	重傷者	軽傷者
人	68	0	632	4,163
住家被害				
	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊
棟数	3,175	2,166	11,642	103,854
世帯	3,138	2,152	11,934	112,078
非住家被害(公共施設その他)				
棟数	40,406			

山古志村の被害状況
(富山市消防本部撮影)

[出典] 新潟県HP、気象庁HP

(平成19年8月23日現在)

< 新潟・福島豪雨の被災状況 >

平成16年7月新潟・福島豪雨

発生時期	平成16年7月13日			
被害発生地域	新潟県・福島県			
新潟県の被害状況				
人的被害				
	死者	行方不明	重傷者	軽傷者
人	15	0	1	0
住家被害				
	全壊	半壊・一部	床上浸水・床下	
棟数	22	238	26,557	
公営住宅				
	全壊	半壊	床上浸水	床下浸水
	0	4	172	48
非住家被害(公共施設その他)				
	公共建物	その他		
棟数	7	19		

(平成16年7月26日現在)

[出典] 北陸地方整備局HP

< 震災からの復興 >

復興モデル住宅



[出典] 長岡市の都市計画2008

平成19年12月23日「やまこし帰村式」



[出典] 中越復興市民会議HP

新潟県中越沖地震 (H19)



新潟中越沖地震				
発生日	平成19年7月16日10:13発生			
震源地	新潟県上中越沖			
M	6.8			
人的被害				
	死者	行方不明	重軽傷者	
人	11	0	1,959	
住家被害				
	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊
棟数	993	493	2,778	34,468
世帯	994	493	2,781	34,503
非住家被害(公共施設その他)				
棟数	30,473			

出雲崎町内の被害状況
(新潟県土木部)

(平成19年8月24日現在)

[出典] 新潟県HP、気象庁HP

刈谷田川浸水状況



北陸地方整備局HP

刈谷田川破堤状況

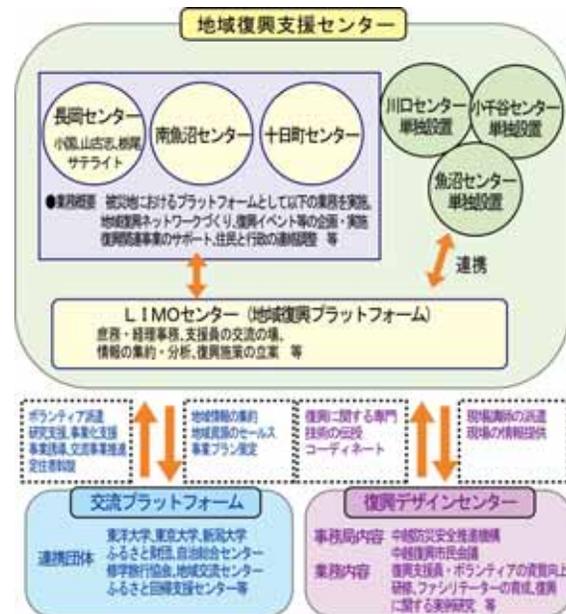


北陸地方整備局HP

中之島町浸水状況 (H16.7.14撮影)



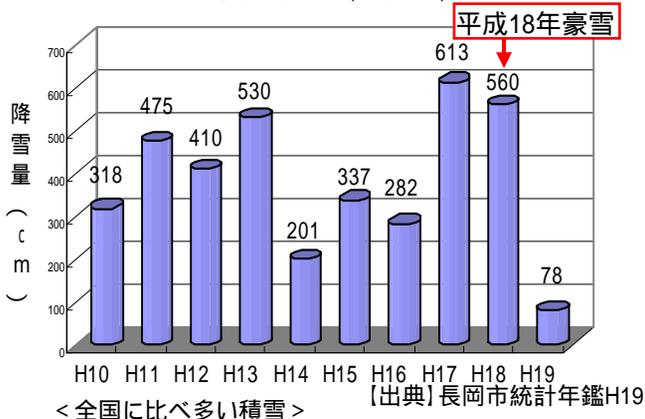
北陸地方整備局HP



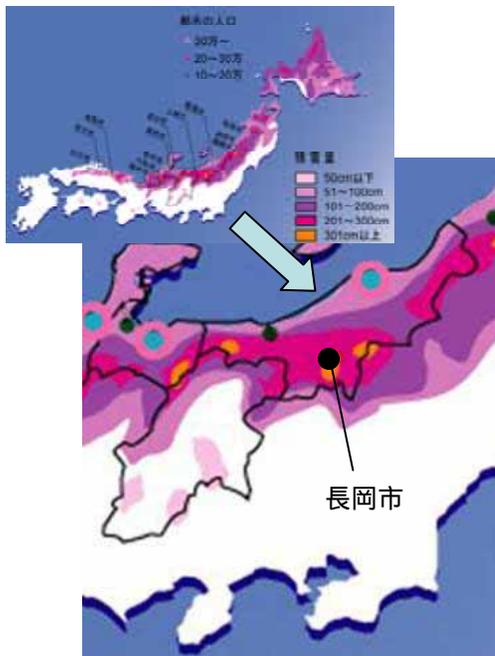
[出典] 財団法人山の暮らし再生機構「地域復興支援センター」資料より作成

長岡地域は全国でも屈指の豪雪地帯であり、その年間累積降雪量が多いときで6mを超える
 長岡地域は、市町村合併により雪の比較的少ない海岸域から、3mを超える積雪がある山間地を持つ
 平成18年豪雪では山間部の山古志地域で最大積雪深3.9mが記録された

過去10年の累積降雪量(長岡市)



<全国に比べ多い積雪>

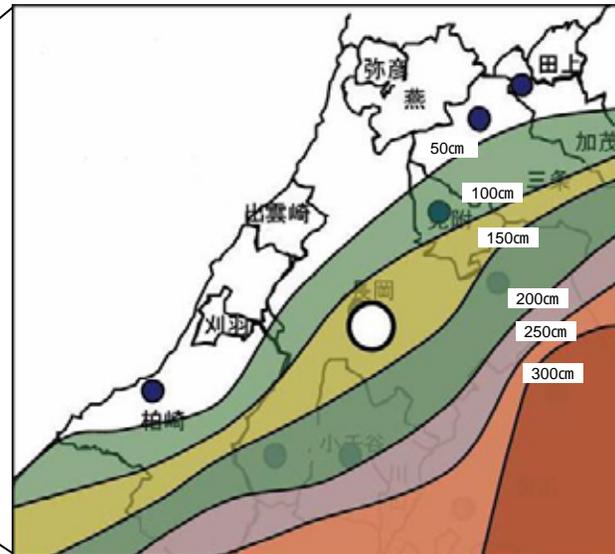


〔出典〕社会資本にかかる北陸地方の将来の姿

H18豪雪(2月6日)積雪深



「平成18豪雪による被害と対応状況(新潟県土木部)」



「平成18年豪雪」による各指定観測点最大積雪深

地域	観測地点		積雪深 (cm)	記録日
長岡地域	中沢4	長岡国道事務所	110	2月6日
	中潟町	六日市小学校	113	2月13日
	宮本町1	宮元小学校	118	2月6日
中之島地域	中之島	中之島支所	66	1月12日
越路地域	浦	越路支所	120	2月6日
三島地域	上岩井	三島支所	95	2月6日
山古志地域	古志竹沢	山古志支所	310	3月15日
	古志種芋原	種芋原保育所	390	2月12日
小国地域	小国町法坂	小国支所	200	2月10日
	小国町原	しぶみ工房	250	2月6日
和島地域	小島谷	和島支所	32	1月9日
寺泊地域	寺泊大町	消防出張所	16	2月6日
	寺泊町軽井	水道営業所	30	1月9日
栃尾地域	栃尾大町	消防署	167	2月13日
	栃堀	東谷小学校	200	2月13日
	西中野保	中野保小学校	298	2月5日
与板地域	与板町本与板	消防署	68	1月24日

〔出典〕長岡市防災情報提供システムHP

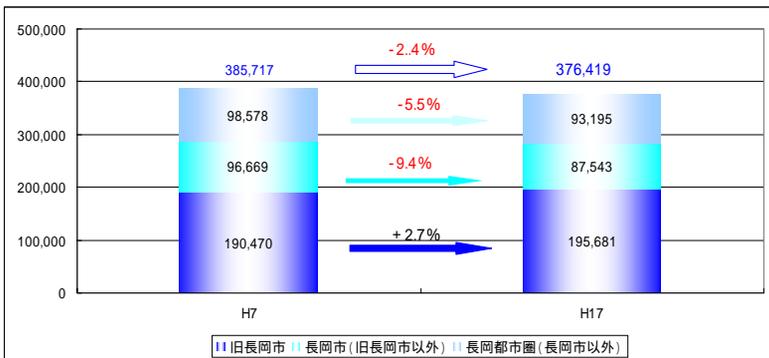
雪に埋まった自動車を掘り出す住民



「平成18豪雪による被害と対応状況(新潟県土木部)」

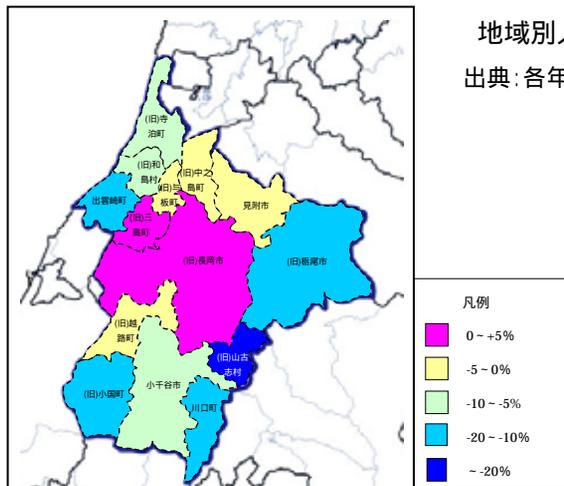
長岡地域の人口は減少に転じており、平成7年から17年までの10年間で約9,000人(2.4%)の減少
 旧長岡市、旧三島町は人口増加傾向にあるが、周辺部では10%以上の減少
 将来的に少子・高齢化の進展が推計されており、特に周辺部での少子・高齢化が顕著になることが推測

長岡地域の人口推移(H7 H17)



出典: 各年国勢調査

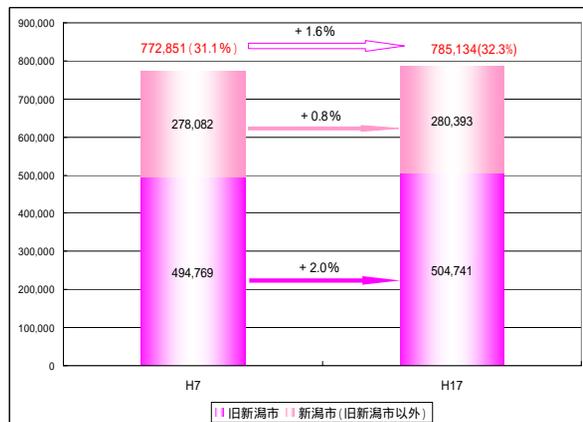
(参考) 他都市圏の人口推移(H7 H17)



地域別人口増加率(H7 H17)

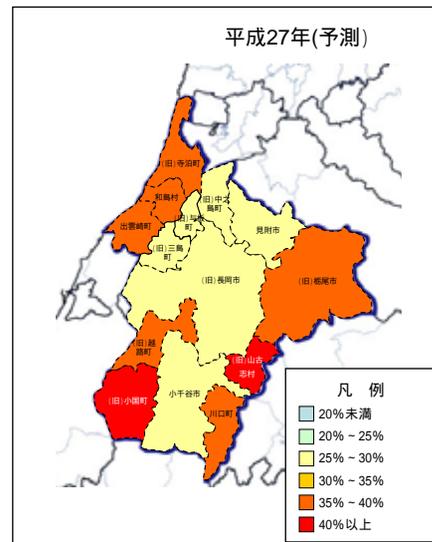
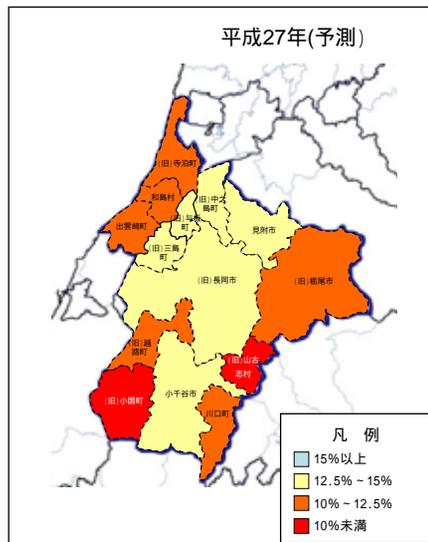
出典: 各年国勢調査

新潟地域



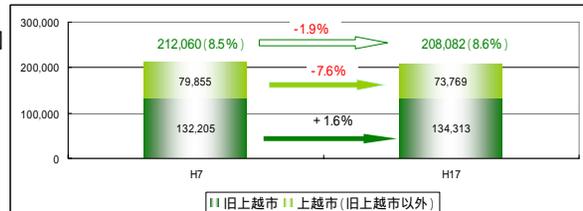
地域(旧市町村)別年少人口比率の予測
 (15歳未満人口比率)

地域(旧市町村)別高齢化率の予測
 (65歳以上人口比率)



出典: わが国の将来人口推計(厚生省人口問題研究所)

上越都市圏



出典: 各年国勢調査

長岡地域では、中山間地域を中心に多くの積雪があり、雪害による通行止めや交通障害、除雪、屋根の雪下ろしなど、厳しい生活環境
 高齢化の著しい中山間地域では、雪下ろしなどが適切に行えなくなる世帯も存在
 中越地震により全村避難となった山古志村では、村民の9割が帰村を希望、平成19年12月に帰村したのは7割

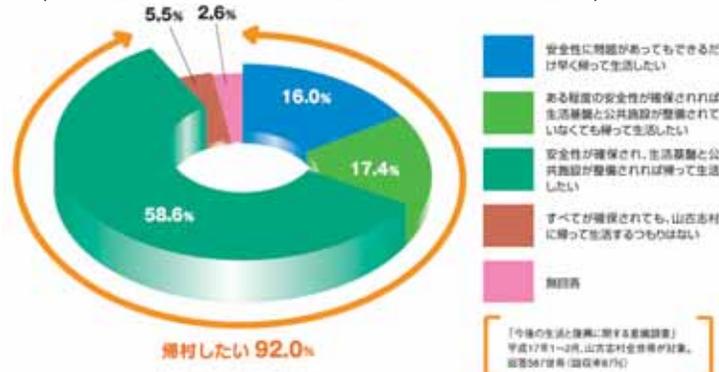
雪庇の処理(国道252号)



雪崩による通行止め



帰村意向
 (全村避難となった旧山古志村の村民の帰村意向)



【出典】長岡新しいまちづくり

平成18年豪雪による被害と対応状況(新潟県土木部)
 ボランティアによる雪かき



出典:国土交通省国土計画局HP

平成18年豪雪による被害と対応状況(新潟県土木部)
 登坂不能による交通障害



平成18年豪雪の全体概要とその課題
 (北陸地方整備局)

帰村の状況

	世帯数(世帯)	人口(人)
震災時	690	2,167
帰村式後の 帰村見込み	473	1,347

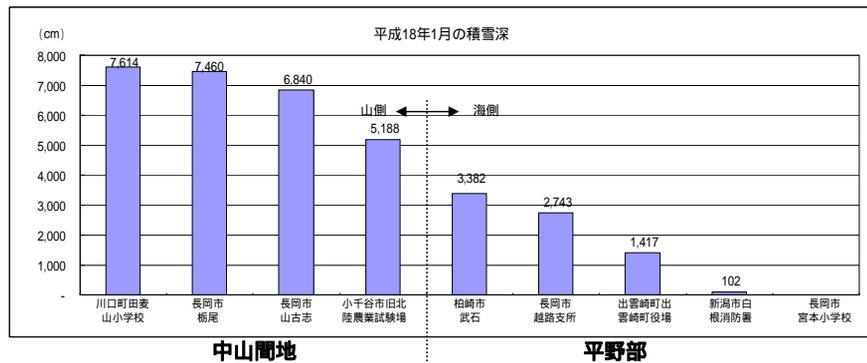
帰村率は
68.5%

【出典】産経新聞HP 2007.12.24 02:19配信記事より作成

平成19年12月23日「やまこし帰村式」

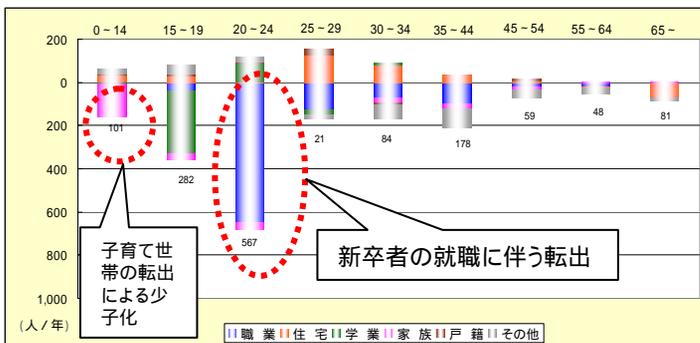


【出典】中越復興市民会議HP

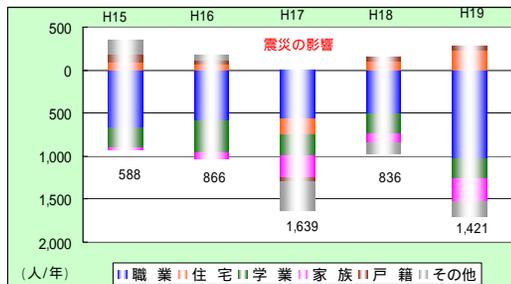


長岡地域の社会動態は、近年一貫して減少傾向(図)
 平成19年の年代別・理由別動態では、20代の就業のための転出超過及び10代後半の学業のための転出が超過(図)
 理由別社会動態の推移では、職業・学業で転出超過。平成17年では震災の影響で住宅理由でも転出超過(図)
 年代別社会動態の推移では、平成19年では全ての世代での転出超過
 長岡市の合成特殊出生率は県平均に比べ高いが、人口置換水準2.07(2003年)には及ばない

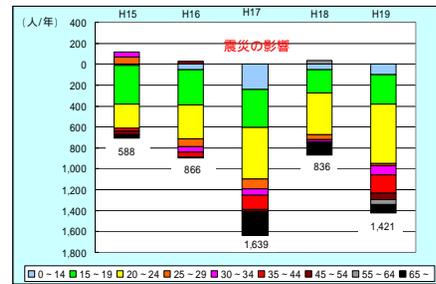
平成19年 年代別・理由別社会動態(長岡圏)



理由別社会動態の推移(長岡圏)



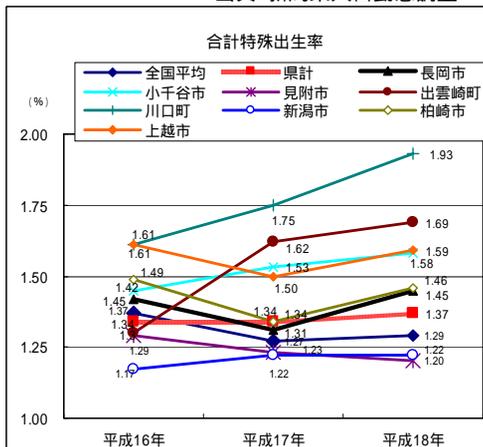
年代別社会動態の推移(長岡圏)



出典:新潟県人口動態調査
 年代別・理由別の区分による社会動態(転入・転出者数)を示す。
 グラフ中の数字は、各合計の転出入数

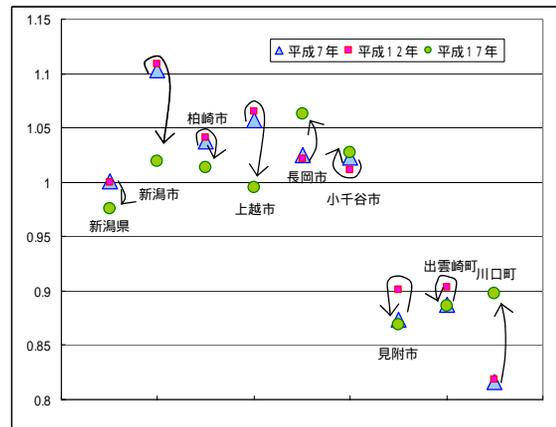
出典:新潟県人口動態調査
 プラスは転入超過、マイナスは転出超過

出典:新潟県人口動態調査



出典:新潟県福祉保健部「福祉保健年報」、人口動態統計(確定数)の概況

昼夜間人口比率の変化



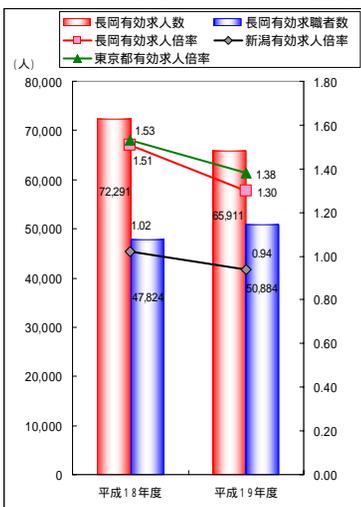
出典:国勢調査各年

昼夜間人口比率:地域の常住人口に通勤・通学による流入を加えさらに通勤・通学で流出する人口を(昼間人口)をその地域の常住人口(夜間人口)で除した比率。1を超えると昼間に流入過多となる。

人口置換水準:人口が制止する合計特殊出生率の水準。2003年では2.07

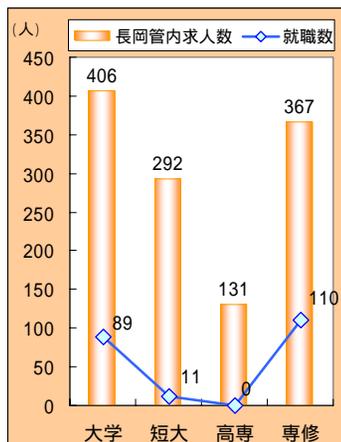
長岡管内の求人倍率は東京の有効求人倍率と類似しており平成19年で1.30
 長岡管内の新卒者求職数は、新卒者求人数の2割程度

求人・求職及び求人倍率の動き(常用)



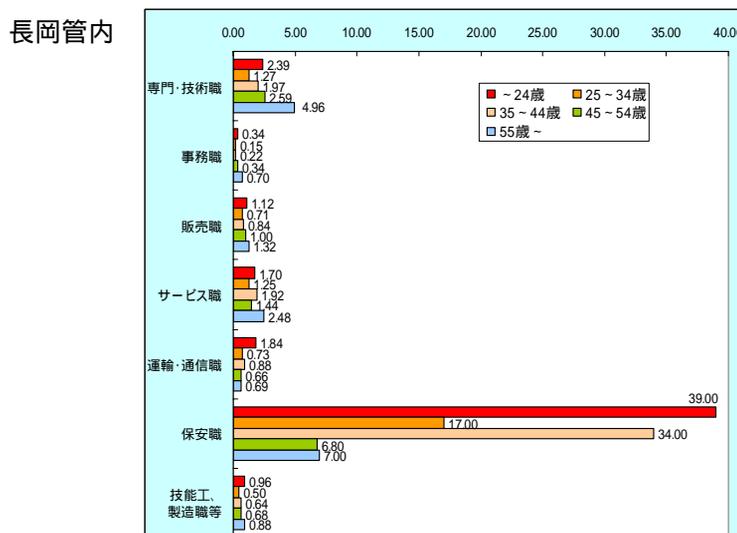
【出典】平成20年度業務概要(ハローワーク長岡)

厚生労働省「職業安定業務統計」 大学等卒業者の職業紹介状況 (平成20年3月)



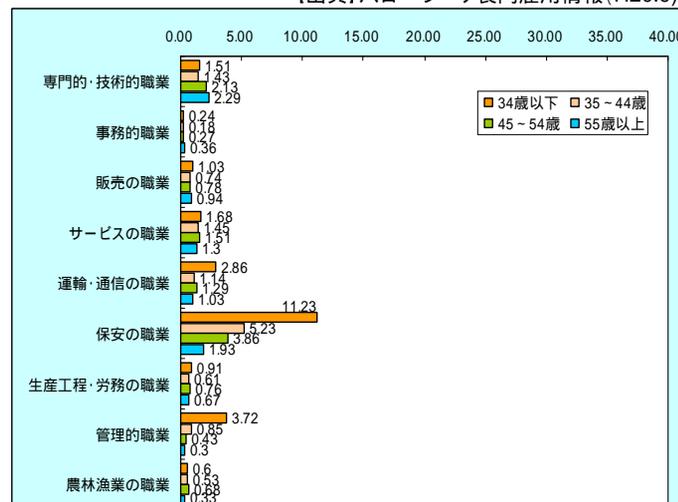
【出典】ハローワーク長岡 平成20年度業務概要

職業別・年齢別求人倍率



【出典】ハローワーク長岡雇用情報(H20.9)

関東

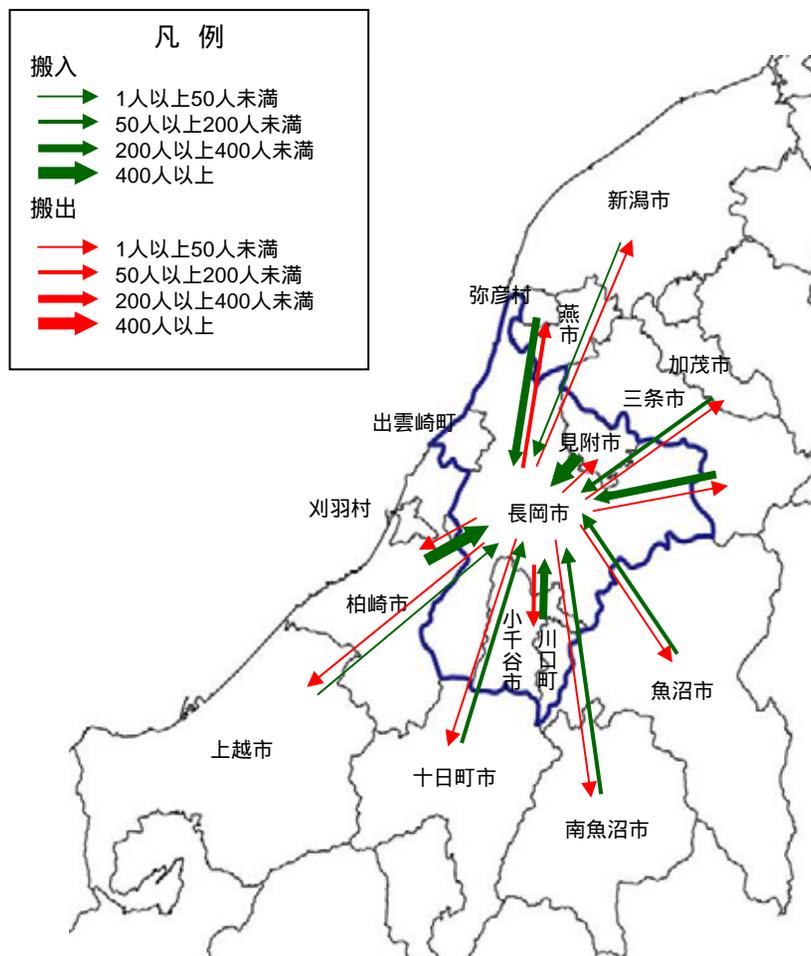


【出典】職業安定業務(H20.9)

長岡市へは管外の隣接市町からも搬送患者が多数存在

救急患者の管外搬送の状況

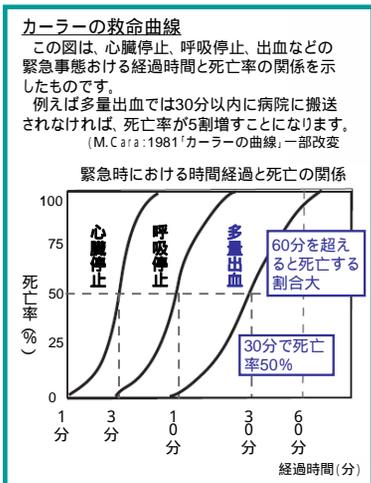
長岡市への管外搬送(人)	
新潟市	15
柏崎市	431
上越地域	20
十日町地域	151
小千谷地域	390
南魚沼市	132
魚沼市	96
三条市	358
加茂地域	50
見附市	649
燕市・弥彦村	302
計	2,594



[出典] 平成18年度新潟県防災局消防課調べ(平成17年度)

高次医療施設到達圏が降雪により減少し、隣接の医療施設へも60分で到達できなくなる地域が発生
 長岡赤十字病院(第三次医療機関)へ到達圏人口は通常期に比べて降雪期では約6割が60分圏外

交通状況による第三次医療機関到達圏の減少 (NITASにより作成)



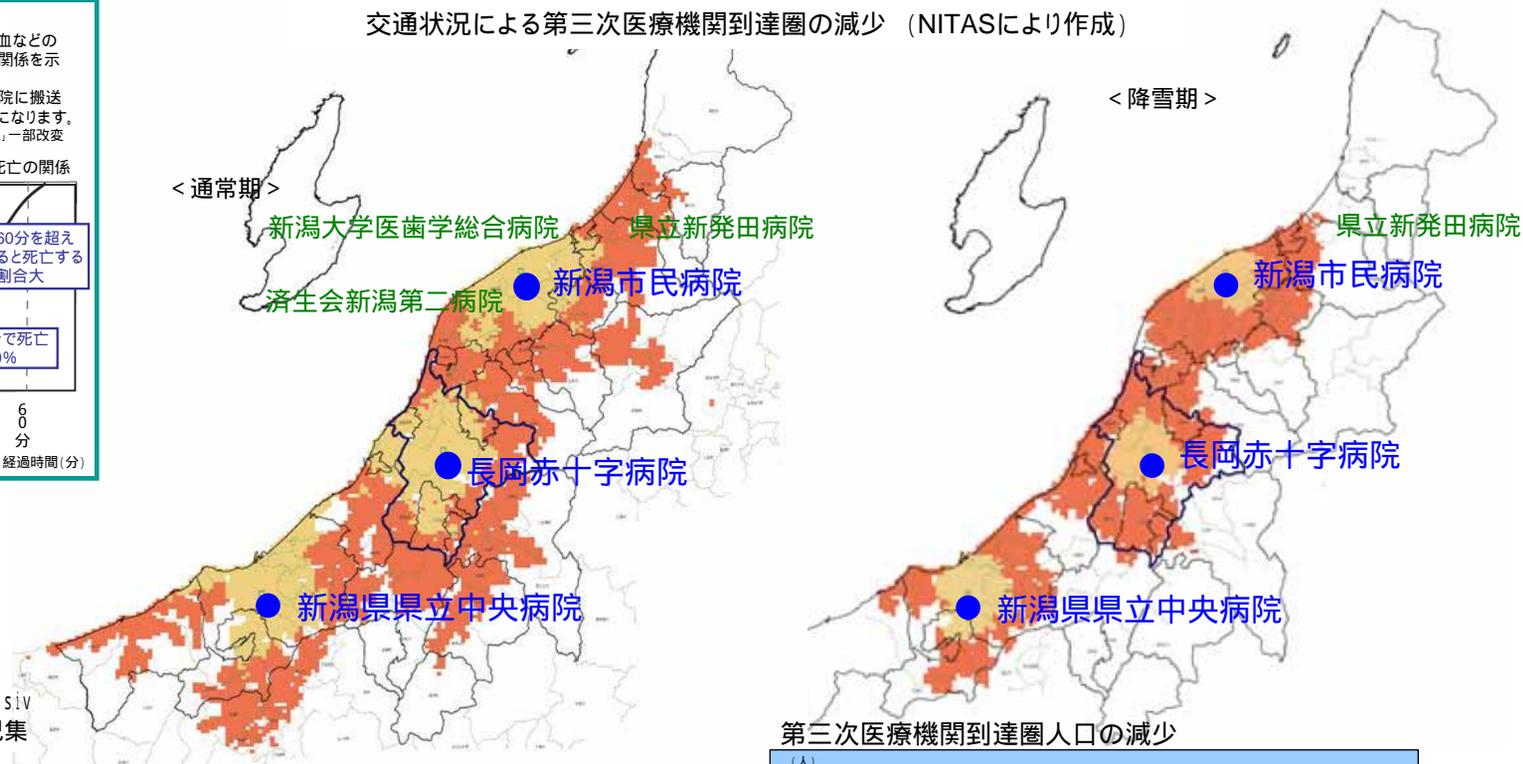
凡例

30分到達圏
60分到達圏

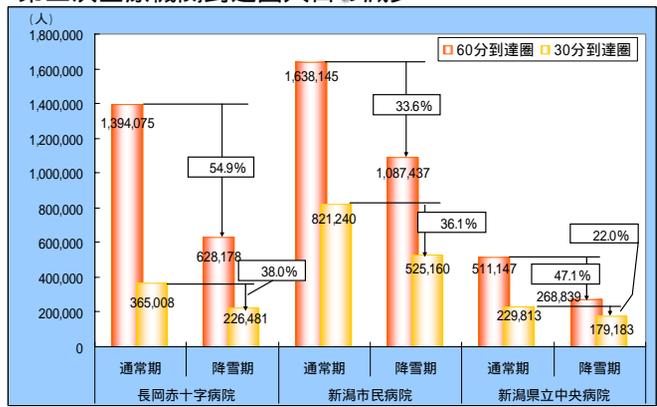
NICU設置病院

NICU: Neonatal Intensive Care Unitの略で、新生児集中治療室の意

到達圏は第三次医療機関からの時間



第三次医療機関到達圏人口の減少



(NITASによる集計結果に基づき作成)

長岡市の中心市街地の人口は昭和55年に比べて約3割減少している一方で、旧長岡市の区域で人口は微増であり、旧長岡市の区域で空洞化が進行
中心市街地での購買力の低下が顕著であり、空き店舗も目立つなど、活力が低下

中心市街地の人口減少

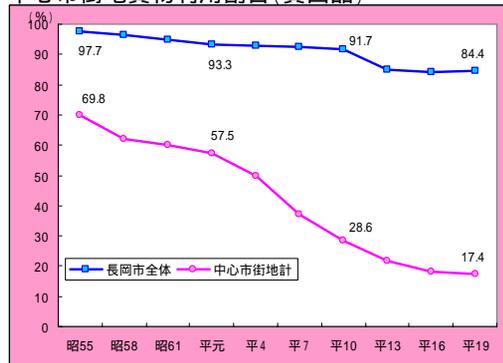
人口の推移 (昭和55年を100とする増減)



(「長岡市中心市街地活性化基本計画」より作成)

買回り品で顕著な購買力低下

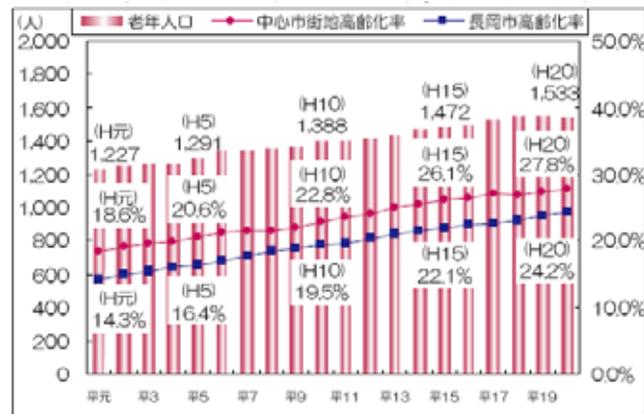
中心市街地買物利用割合 (買回り品)



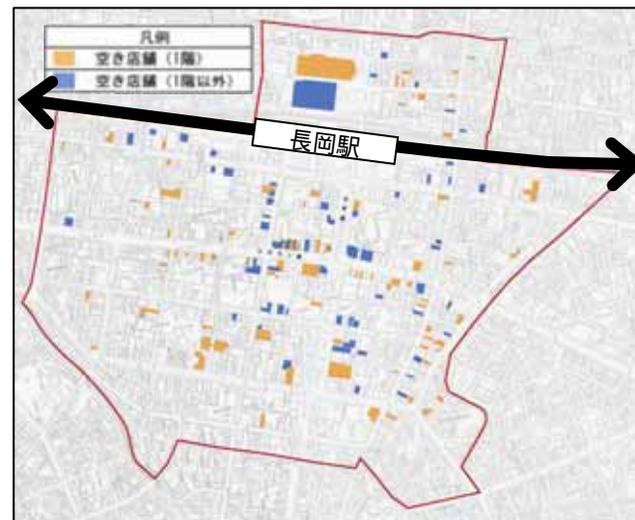
(「長岡市中心市街地活性化基本計画」より)

中心市街地で進む高齢化

中心市街地の老年人口及び高齢化

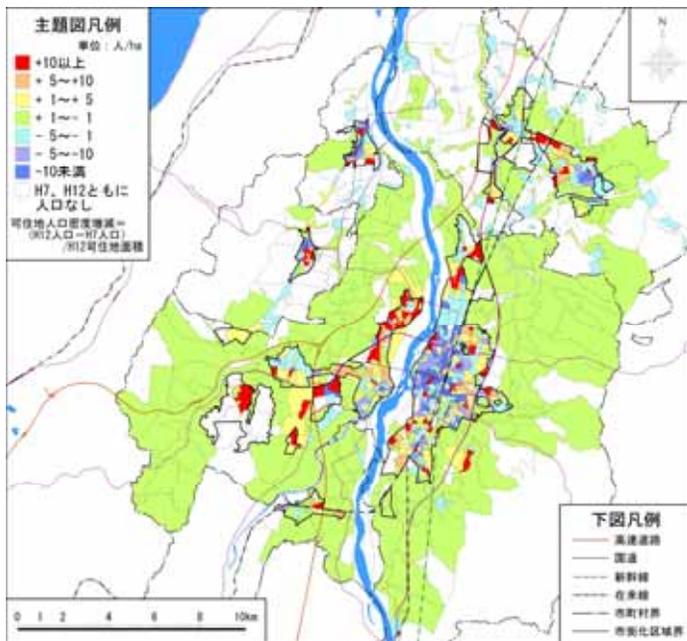


中心市街地で顕在化する空き店舗



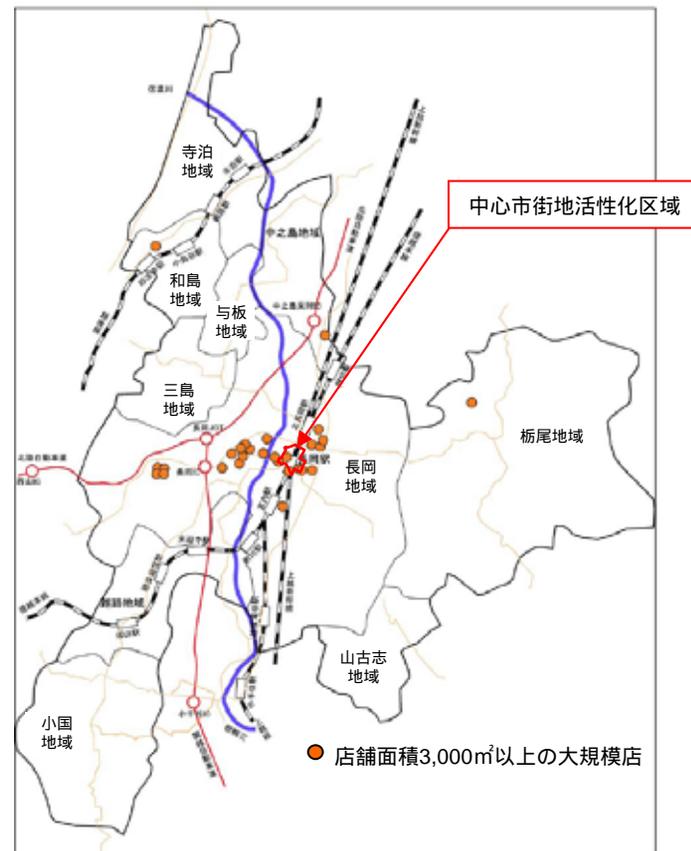
旧)長岡市では、全体の人口増はみられるものの、中心部での人口が減少し、郊外部へ市街地が広く、薄く拡散する傾向あわせて、郊外型店舗の立地等による中心機能の低下が懸念

郊外へ薄く広がる市街地

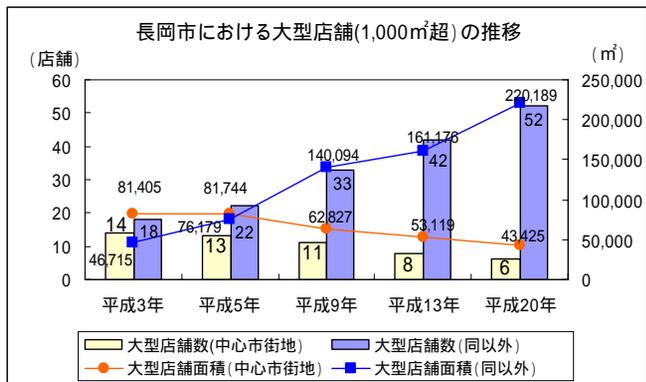


出典：都市のすがた長岡都市計画区域
(平成18年新潟県)

郊外出店が進む大規模小売店舗



出典：長岡市中心市街地活性化基本計画

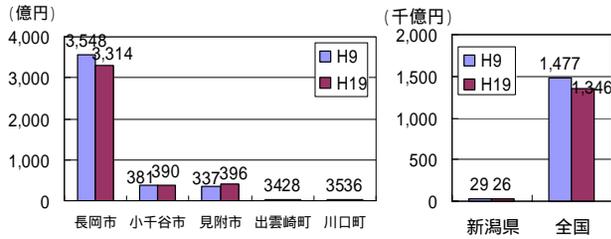


出典：長岡市中心市街地活性化基本計画

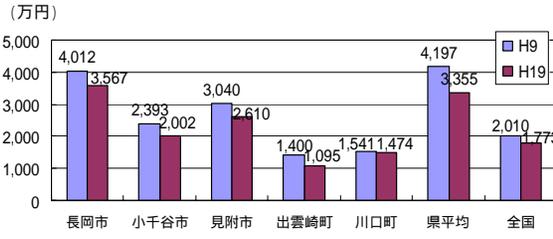
小売販売額では、小千谷市、見附市で増加の反面、中心都市である長岡市で減少。小売店舗数は全体に減少しており、店舗の大型化が進行
 小売販売額、小売店舗数共に全国の傾向とほぼ同様の傾向を示す中で、見附市の小売販売額は増加
 1km²あたりの小売店舗数は他都市に比べ少ない
 長岡市を中心とする商圈は、第三次商圈まで含めると都市圏を超え中越地方全般を吸引しているが、平成19年の第一次商圈は縮小

商業の状況

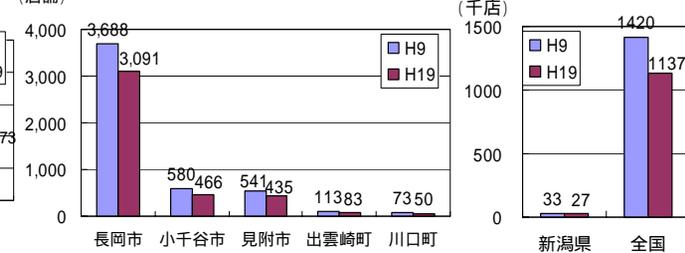
小売販売額



従業員一人当たり小売販売額



小売店数



【出典】商業統計(平成9年、平成19年)

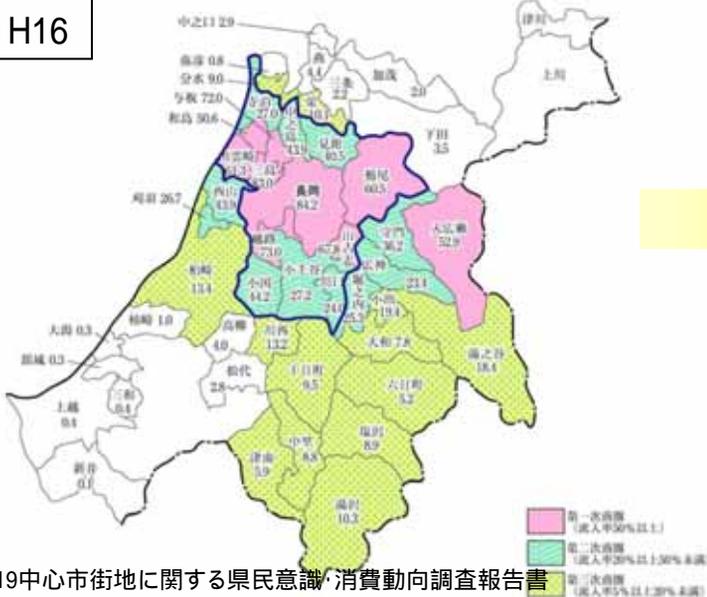
H9長岡市データは旧小国町、和島村、山古志村を除く。

商圈(旧長岡市)

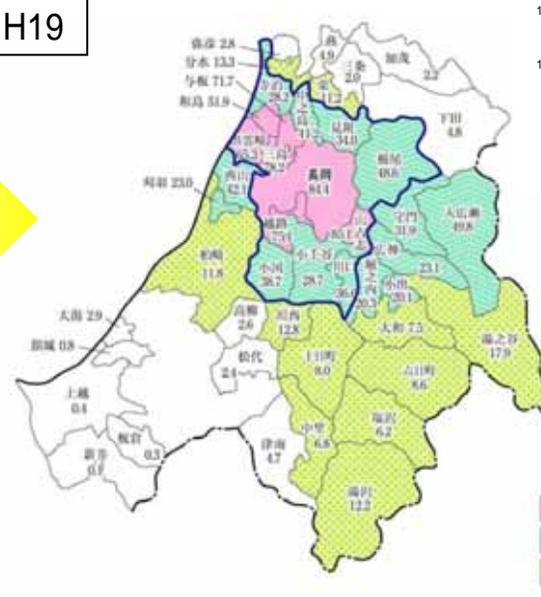
(長岡市における消費需要の吸引力)

<地区(旧市町村)間流出入状況(買回品)>

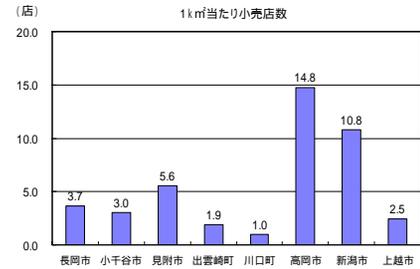
H16



H19



1Km²当たり小売店舗数(H19)



栃尾市、中之島町、越路町、三島町、与板町、和島町、寺泊町、山古志村は旧市町村

【出典】H19中心市街地に関する県民意識・消費動向調査報告書

長岡圏は多様な観光資源等を背景に県内では比較的観光入り込み客数が700万人と多い地域
観光入り込み客が多い観光地は、「鮮魚センター(116万人)」や「長岡まつり(91万人)」

寺泊海水浴場
平成18年利用者58万人



(出典:長岡市HP)

与板十五夜まつり



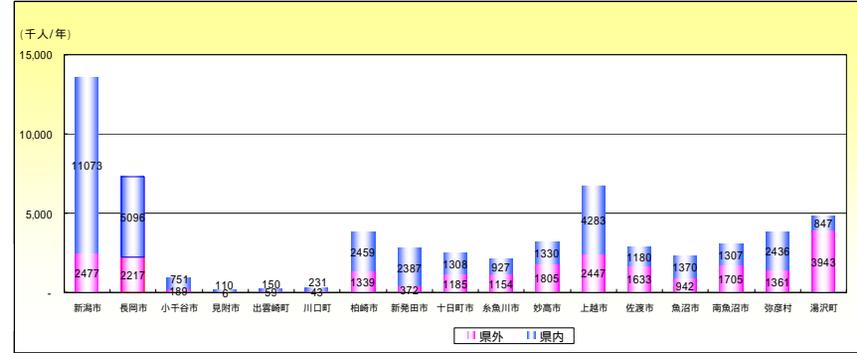
(出典:長岡市HP)

山スキー



(出典:とちおファミリースキー場HP)

主な市町村の観光入り込み客数



出典:新潟県統計年鑑

鮮魚センター



(出典:長岡市HP)

長岡まつり



尺玉100発を打ち上げる米百俵花火など2日間で約20,000発(平成19年は2日間で85万人の入手)
(出典:国土交通省河川局HP)

片貝花火



400年の歴史がある奉納花火。世界で唯一の四尺玉など2日間で約15,000発の打ち上げ
(出典:小千谷市HP)

えちごかわぐち
雪洞火ばたる祭



(出典:川口町HP)

国指定 重要
無形民俗文化財
(出典:長岡市HP)



牛の角突き

棚田・里山(山古志)



(出典:北陸地方整備局HP)

おぢやクラインガ
ルテン(イメージ)



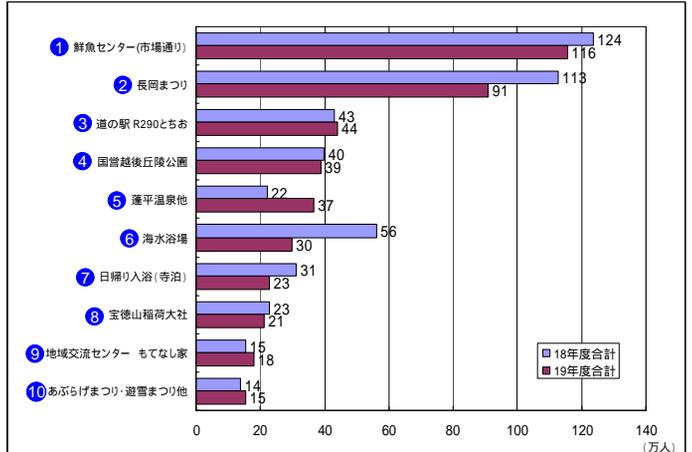
(出典:国土交通省住宅局HP)

裸押合大祭



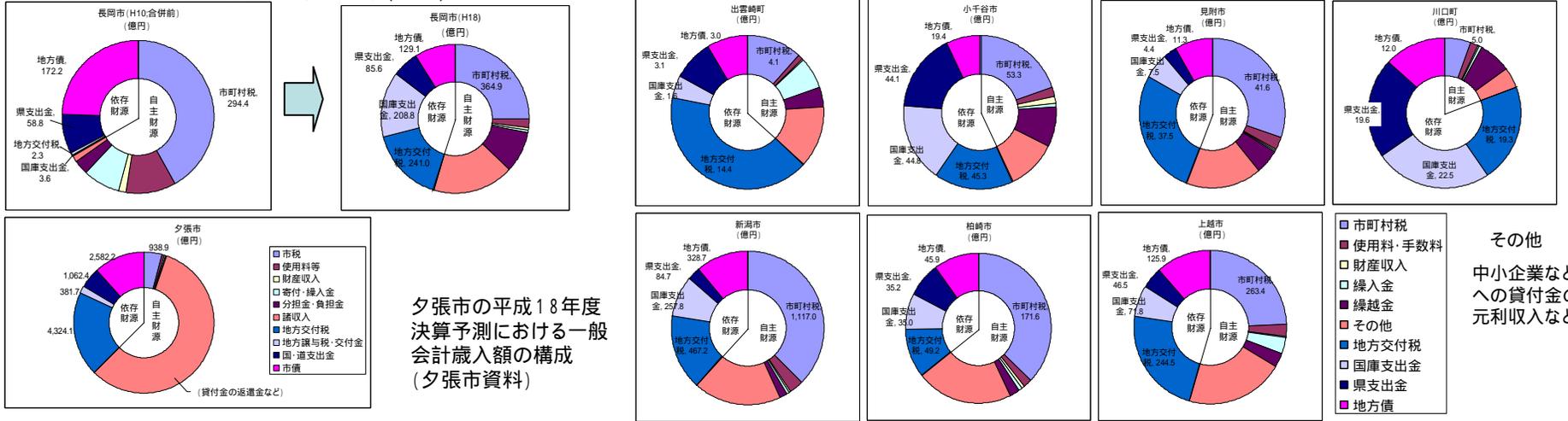
(出典:長岡市HP)

長岡市の主要観光地入込数(上位10ヶ所)

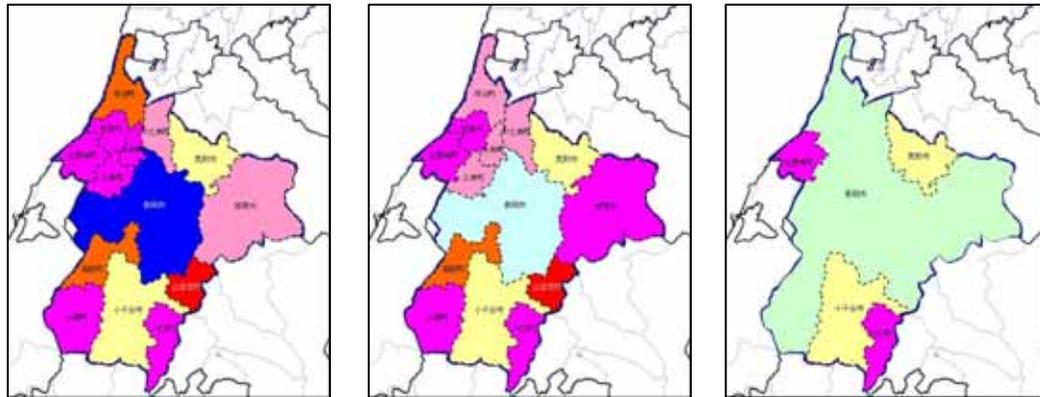


財政力指数は低減しているが、歳入に占める自主財源は長岡市、見附市で半分以上それ以外では50%を割り込む
 下水道では、下水道会計に一般会計からの繰り入れを行いながら、下水道を維持管理

市町村収入に占める自主財源の比率 (H18)



財政力指数の状況



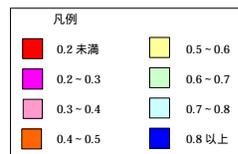
平成9年度



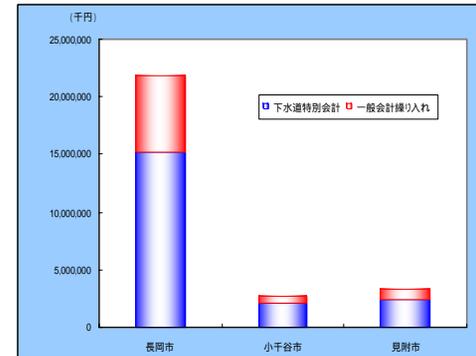
平成16年度(合併前)



平成18年度(合併後)



公債費負担比率



[資料] 新潟県HP「市町村別決算状況表(H18)」及び各市HP財政資料より作成

	総人口	処理区域人口	普及率
長岡市	281,805	244,652	86.8%
見附市	43,292	32,489	75.0%

問題の核(地域固有の+ 問題)

人口減少
地域の人口減少と中心都市への集積

少子高齢化
周辺部で進む少子高齢化

人口流出
職業等を理由とした若い世代の減少

長岡地域固有の問題；
地震等の影響
地震等により甚大な被害

長岡地域固有の問題；
雪の影響
積雪による雪害の影響の大きい地域

問題の連鎖

**都市の中心機能の
拡散・低下**
旧長岡市で拡散する市街地
賑わいが低下する中心市街地
商圈は分散傾向

**地域医療に関する
生活の不安**
高次医療機関にアクセス困難
周産期の医療に不安

中山間地の衰退
高齢化や雪の影響など
厳しい生活環境
時間を要する中山間
地域の復興

**選択肢の少ない
就職先**
新卒者求職数は新卒者
求人数の2割

**活かされない
多様な地域資源**
多様で地域独自の地域資
源が多数点在
特定の資源に観光が集中

生活圏の郊外化

暮らしの利便性の低下

地域コミュニティの維持困難

若者に魅力ある職の不足

広がり少ない地域観光

長岡地域の生活圏形成に向けた課題

生活利便性の維持・確保
市民の生活を支える、公益施設のまち中への移転
中心市街地の活性化による拠点の魅力化、吸引力の強化
公共交通の需要拡大とサービス水準の維持
ICTによる在宅デマンド交通の整備

中山間地域の安心した暮らしの確保
地域拠点と中山間地等を結び、積雪に対しても信頼
性の高い交通ネットワークの確保
都市部と中山間地等での交流活動の核となる
「新たな公」の育成や支援

豊かな地域資源等の活用
地震復興のメモリアル資源の新たな観
光資源としての活用・PR
ICT機能を活用し、携帯電話やPDAな
ど携帯端末による観光地、地域資源に
おける周辺観光資源等の情報提供

若者にも魅力ある就業機会につながる交流の展開と地域産業の活性化

滞在拠点の農業就業への誘導を目指した、少量多品種の農作物販売やアンテナショップ機能を持つクラインガルテンなど都市居住の人々の週末滞在を促進する滞在拠点における販売拠点の形成
産業拠点と港湾やインランドデポ等物流拠点間の道路の積雪対策や耐震補強の強化